

(ご参考) 用語解説

グリーン電力証書システム:

風力発電等の自然エネルギーによって発電された電力の環境付加価値分を、導入する企業が支払うことで「グリーン電力証書」を受け取り、自然エネルギーを購入し使用したとみなすシステム。通常の電力と比べると割高になるが、省エネルギーやCO2排出削減につながる。

天候デリバティブ:

暖冬、冷夏、降水などの予測できない天候の変動等に伴い生じる事業上の損失に備えるための金融商品。

エコファンド:

財務的分析に加えて、環境問題への対応が優れている企業及び環境に関連する事業を行う企業の株式を中心に投資する投資信託をいう。

CDM(クリーン開発メカニズム):

先進国の資金・技術支援により、発展途上国において温室効果ガスの排出削減等につながる事業を実施する制度。これによって削減された量の全部または一部に相当する量を先進国が排出枠として獲得できる。

UNEP FI (国連環境計画・金融イニシアティブ):

金融機関のさまざまな業務において、環境および持続可能性(サステナビリティ)に配慮した最も望ましい事業のあり方を追求し、これを普及、促進すること。

PRI(責任投資原則):

世界の機関投資家の投資決定プロセスに環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)問題を反映させることを目的とするもの。

CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト):

世界の機関投資家(155社運用総額21兆ドル)が共同で、世界の大企業500社(FT500)を対象に地球温暖化への取組状況について調査を行い、投資先としての適格性を環境面から評価するプロジェクト。

EMS(環境マネジメントシステム):

組織の活動に伴う環境への影響を特定し、それを管理するための組織的な体制や対策を進める体系的な仕組みのこと。